

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立持田小学校）

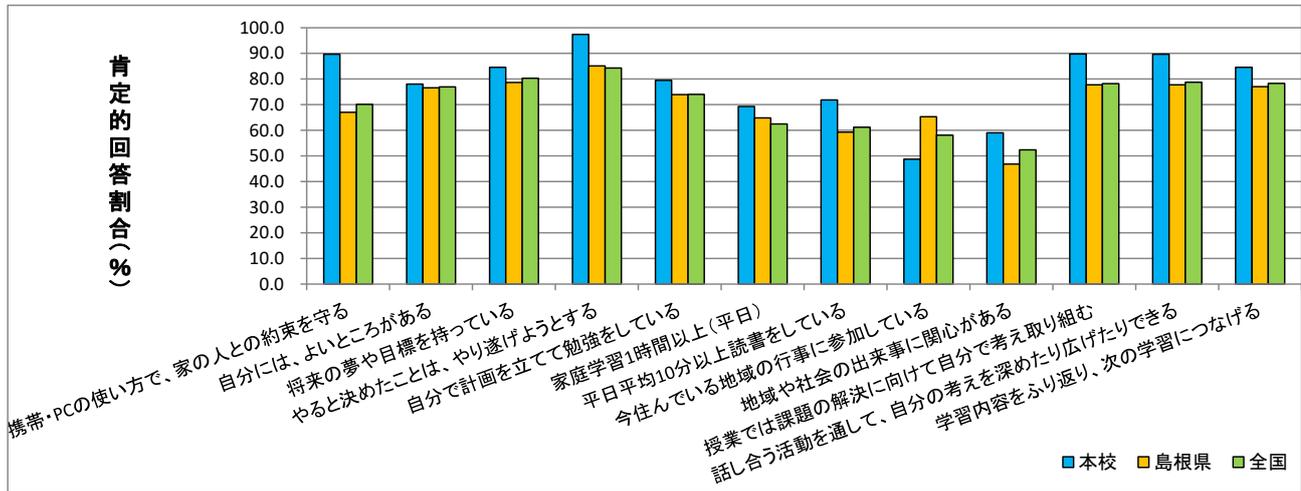
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
国語	○目的や意図に応じ、自分の考えが伝わるように資料を使って表現をする工夫ができる児童の割合が高い。 ●文の中における修飾と被修飾との関係を捉えていない児童の割合が高い。	・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について、普段の授業の中で意図的に問いかけ、考えさせるようにする。
算数	○棒グラフから、数量を読み取ることは全員ができていた。 ○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる児童の割合が高い。 ●基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述することができない児童の割合が高い。	・文章で記述する問題に対し、無解答であった児童が約4分の1もいたことから、普段の授業から、どのように考えて答えを求めたのかなどについて、言葉で説明したり、文章に表したりする体験を増やしていくようにする。

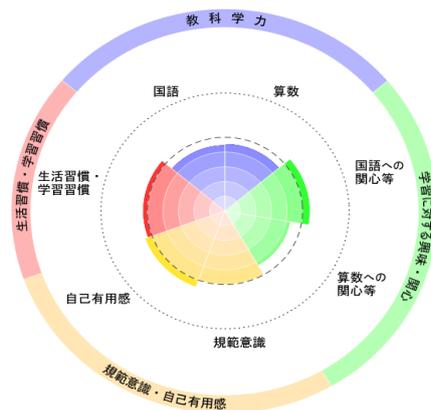
(2) 生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
	○「自分でやると決めたことはやり遂げている」「人が困っているとき進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「ICT機器の利用状況」「5年生までに受けた授業」「道徳の授業」「国語・算数・英語の授業」について肯定的な回答をしている児童の割合が高い。 ●「算数の勉強が好き」と答えている児童の割合が低い。 ●「いじめは絶対いけない」と考えている児童の割合が低い。	・「算数の授業で学習したことは将来役に立つ・普段の生活の中で活用できないか考える」と答えている児童の割合は高い結果が出ており、さらにゲーム的な要素も取り入れながら、楽しさのある授業づくりを志向し、算数が好きになる児童を増やしていく。 ・人権教育をさらに推進していく。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・算数では、基礎基本の定着を図るために、おさらいの時間を十分に取る。
・卒業に向け、最高学年としての気持ちの持ち方や態度について、機会を捉えて、くり返し指導をする。

【受検者数】 39名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。